

自己点検書

(2. 自己点検結果編)

芝浦工業大学 工学部 土木工学科
社会基盤コース

(土木工学分野)

Infrastructure Engineering

審査分類：新規審査 / 認定継続審査 / 中間審査

記入上の注意

- ・白色のセルにのみ記入してください。着色及び網かけのあるセルには記入しないでください。
- ・「自己判定結果」欄に、プログラム側の視点で自己判定結果を記入してください。
自己判定の指標は下記のとおりです。
 - ◎：認定基準の要求事項を満たし、さらにそれを上回る取り組みを行っている
 - ：認定基準の要求事項を満たしている
 - △：認定基準の要求事項を概ね満たしているが、改善の余地がある
- ・「基準への適合状況の説明」欄に説明を簡潔に記入してください（多くても200文字程度）。
- ・「前回受審時からの改善・変更」欄には、下記の説明を記入してください（多くても200文字程度）。なお、新規審査の場合は記入不要です。
 - (1) 前回受審時の「W：弱点」に対する対応
 - (2) 前回受審時の「C：懸念」に対する対応
 - (3) その他の前回受審時からの改善、変更
- ・「根拠資料」欄には、根拠となる資料の名称と所在を記入してください。
添付資料、実地審査閲覧資料には整理番号を付し、該当する資料の整理番号を「根拠資料」欄に記入してください。
インターネット上でアクセスできるものについてはURLを記入してください。その場合でも、負担にならない範囲で自己点検書の添付資料に含めてください。

番号	点検項目	自己 判定 結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1	基準1 学習・教育到達目標の設定と公開				
1(1)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていること。この技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものであり、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものであること。さらに、その技術者像が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員および学生に周知されていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(1)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていますか？	◎	創立以来、実学志向の建学の理念に基づいており、芝浦工業大学、工学部および土木工学科において、それぞれのアドミッションポリシーとディプロマポリシーを定めてある。学科のアドミッションポリシーとディプロマポリシーにおいて、『社会科学をとり込み社会基盤システムの創造を担う学生を育む』を教育目標とし、土木工学科が求める技術者像を「社会基盤コース」と「社会システムデザインコース」の2コースに関し、定めてある。		大学のアドミッションポリシー ディプロマポリシー 育成する人材像
1(1)[2]	上記の技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものですか？	◎	本学科は2000年度より2コース並列で運営し、2013年度は専任の教授8名、准教授3名と特任教授1名で指導している。設備資源は、豊洲校舎に12研究室3実験室とゼミ室、大宮校舎に測量準備室などを保有している。最近6ヶ年の就職統計によれば、公務員とインフラなど公共的分野は26.7%、ゼネコンなど建設系民間業者は32.6%、進学は20.6%となっており、プログラムは伝統、資源及び修了生の活躍分野が考慮されたものである。		教育目標とカリキュラム 添付資料1-1-1 芝浦工業大学土木工学科の歴史 添付資料1-1-2 土木工学科教員変遷と計画2014年版1970-2020 添付資料1-1-3 卒業生の進路の分析資料2012.5.18
1(1)[3]	上記の技術者像は、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものですか？	◎	卒業生の進路を調査すると、建設業界、それも土木業界への就職率が高く、在校生も土木業界の理解度や期待も高く、土木技術者としての進路を強く希望していると言え、一方業界からの求人も多く、これらを反映して技術者像を作成している。卒業生、卒業生の就職先、父母、学生からの要望を考慮するシステムがあり、公務員・準公共的インフラ・ゼネコン・コンサルタントなど土木業界の広い分野に対応し、高い水準を持った技術者像となっている。		添付資料1-1-3 卒業生の進路の分析資料2012.5.18 添付資料1-1-4 土木工学科JABEEにおける到達水準（評価基準）2013.10.4制定 添付資料1-1-5 在校生の土木工学に対する意識変化 添付資料1-1-6 土木工学科卒業生へのアンケート結果の評価 添付資料1-1-7 2010年度学内合同企業説明会アンケート調査結果 添付資料1-1-8 父母懇談会プログラムおよび実施報告2012年度の例 添付資料1-1-9 2011年度学生による教育評価アンケート 添付資料1-1-10 授業アンケート アンケート用紙 添付資料1-1-11 授業アンケートweb公開例 添付資料1-1-12 卒業生への案内およびホームカミングデー年度別参加者数2012年度の例 添付資料1-1-13 里帰りゼミ活動記録2012年度の例 添付資料1-1-14 工学部教育点検システムと改善の流れ 添付資料1-1-15 JABEE学科基本組織2014&2013年版 添付資料1-1-16 土木工学科人事案2014&2013年版 授業アンケートweb(教員データベースから)
1(1)[4]	上記の技術者像は、広く学内外に公開されていますか？	◎	土木工学科社会基盤コースの教育理念、目的、学習・教育目標、学習・教育目標達成のための教育方法および学習・教育目標達成のための対応科目についての内容を2011年4月1日より芝浦工業大学土木工学科のwebサイトに掲示し、学内外に公開した。また、工学部JABEE推進委員会発行の「芝浦工業大学JABEEへの取り組み」という冊子を作成し、学内関係教職員や学生に配布している。		土木工学科H.P. 実地閲覧資料1-1-1 芝浦工業大学JABEEへの取り組み
1(1)[5]	上記の技術者像は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	◎	2011年4月以降、年度初めに行われる新入生ガイダンスにおいて、全員に冊子「芝浦工業大学JABEEへの取り組み」と「土木工学科JABEE説明資料」を配布し、教育理念、学習教育到達目標、教育方法などの説明を行っている。年度終了時には、学習教育到達目標等の内容を学科内JABEE関連委員会で見直しを行い、プログラムの内容を学科全教員に周知し、さらに懇談会を開催して非常勤講師にも周知している。		添付資料1-1-17 新入生ガイダンス資料2014&2013年度分 添付資料1-1-18 土木工学科学生JABEE説明資料2014年版 添付資料1-1-19 非常勤報告説明会進行説明資料(2014.3) 実地閲覧資料1-1-1 芝浦工業大学JABEEへの取り組み

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものであり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習・教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。なお、学習・教育到達目標を設定する際には、(a)～(i)に関して個別基準に定める事項が考慮されていること				
1(2)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていますか？	◎	プログラムの学習・教育到達目標を2011年度から明示し、運用するとともに、ディプロマポリシーに記載している。2012年度は、学習・教育到達目標Ⅰに関し、英語による基礎的なコミュニケーション能力と修正し、2013年度は、Aに関し、A-2を追加し、健康・体育科目に相当する内容を追加した。		表1 学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応 添付資料1-2-1 学習・教育到達目標の達成と基準1(2)の(a)～(i)の育成のための科目配置 添付資料1-1-4 土木工学科JABEEにおける到達水準(評価基準) 2013.10.4 添付資料1-2-2 学習教育目標と科目・履修条件の相関 2013.10.9 添付資料1-2-3 基準1の(a)-(i)の項目の詳細説明(勘案事項) 2013.10.4 添付資料1-2-4 能力と科目・履修条件の相関2013.10.4
1(2)[2]	学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものですか？				
1(2)[2](a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養	◎	表1に示すとおり、(a)の内容は学習教育到達目標A(A-1,A-2)の知識・能力の育成により達成する。具体的には表2と添付資料に示すように、主体的には「環境の科学」などで育成する。評価基準：技術者として、国内外において、人類のさまざまな文化、社会と自然に関する知識があり、それらの特徴を理解できるとともに、それに基づいて、自らの行動を適切に理解し、状況を整理・分析できる。		表1 学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 添付資料1-2-1 学習・教育到達目標の達成と基準1(2)の(a)～(i)の育成のための科目配置 添付資料1-1-4 土木工学科JABEEにおける到達水準(評価基準) 2013.10.4 添付資料1-2-3 基準1の(a)-(i)の項目の詳細説明(勘案事項) 2013.10.4 添付資料1-2-4 能力と科目・履修条件の相関2013.10.4
1(2)[2](b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解	◎	表1に示すとおり、(b)の内容は学習教育到達目標B,A-1の知識・能力の育成により達成する。具体的には添付資料表2と添付資料に示すように、主体的には「技術者の倫理」で育成する。評価基準：技術者として、当該分野の技術が公共の福祉に与える影響・当該分野の技術が生み出す環境保全と社会の持続ある発展への関与・技術者が持つべき倫理と責任に対し、理解するとともに、上記の理解に基づいて、当該分野の技術者として実務を行う際に必要となる最低限の知財・法律・企業活動の実務に関する知識を有し、社会の実相を反映したモデル問題について状況を分析でき、自らの行動を認識できる。		表1 学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 添付資料1-2-1 学習・教育到達目標の達成と基準1(2)の(a)～(i)の育成のための科目配置 添付資料1-1-4 土木工学科JABEEにおける到達水準(評価基準) 2013.10.4 添付資料1-2-3 基準1の(a)-(i)の項目の詳細説明(勘案事項) 2013.10.4 添付資料1-2-4 能力と科目・履修条件の相関2013.10.4
1(2)[2](c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力	◎	表1に示すとおり、(c)の内容は学習教育到達目標C,A-1,D,Fの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2と添付資料に示すように、主体的にはCでは数理基底科目数学(必須)など、Dでは流れの力学などで育成する。評価基準：当該分野に必要な数学及び自然科学に関する知識を有し、上記の知識を組み合わせることも含め、技術者として当該分野の問題解決のために上記の知識を応用でき、その問題を分析できる。		表1 学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 添付資料1-2-1 学習・教育到達目標の達成と基準1(2)の(a)～(i)の育成のための科目配置 添付資料1-1-4 土木工学科JABEEにおける到達水準(評価基準) 2013.10.4 添付資料1-2-3 基準1の(a)-(i)の項目の詳細説明(勘案事項) 2013.10.4 添付資料1-2-4 能力と科目・履修条件の相関2013.10.4
1(2)[2](d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力	◎	表1に示すとおり、(d)の内容は学習教育到達目標C,D,E,F,G,Hの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2と添付資料に示すように、主体的には、Cでは土木解析学など、Dでは環境の工学など、Eでは土木実験1と2、Fでは土木設計演習1、Gでは水工学など、Hでは土木工学セミナーで育成する。評価基準：当該分野において必要とされる専門的知識を有し、これらの知識を組み合わせ、当該分野の問題解決に必要なハードウェア・ソフトウェアのツールを利用できる能力を有し、これらを利用して、技術者として当該分野の問題を分析できる。		表1 学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 添付資料1-2-1 学習・教育到達目標の達成と基準1(2)の(a)～(i)の育成のための科目配置 添付資料1-1-4 土木工学科JABEEにおける到達水準(評価基準) 2013.10.4 添付資料1-2-3 基準1の(a)-(i)の項目の詳細説明(勘案事項) 2013.10.4 添付資料1-2-4 能力と科目・履修条件の相関2013.10.4

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[2](e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	◎	表1に示すとおり、(e)の内容は学習教育到達目標F,G,Hの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2と添付資料に示すように、主体的にはプロジェクト評価などで育成する。評価基準：社会の実相を反映したモデル問題に対して、技術者としての問題解決を行うために、解決すべき問題を認識し、公共の福祉・環境保全・経済性などの考慮すべき制約条件を特定し、解決すべき課題を論理的に特定・整理・分析し、課題の解決に必要な数学・自然科学・該当する分野の科学技術に関する系統的知識を適用することができる。さらに種々の制約条件を考慮して、解決に向けた具体的な方針を立案し、複数の解の中から最適解を選定し、立案した方針に従って、モデル問題の創造的解決を図ることができる。		表1 学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 添付資料1-2-1 学習・教育到達目標の達成と基準1(2)の(a)～(i)の育成のための科目配置 添付資料1-1-4 土木工学科JABEEにおける到達水準（評価基準）2013.10.4 添付資料1-2-3 基準1の(a)-(i)の項目の詳細説明（勘案事項）2013.10.4 添付資料1-2-4 能力と科目・履修条件の相関2013.10.4
1(2)[2](f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	◎	表1に示すとおり、(f)の内容は学習教育到達目標Iの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2と添付資料に示すように、主体的には英語基礎科目、導入ゼミナール、土木ゼミナール、卒業研究で育成する。評価基準：自らの意見を論理的に整理し、関連する情報と共に他者に伝え、また他者の発信した情報や意見を理解できる。さらに英語等の外国語でやり取りができ、社会の実相を反映したモデル問題に対して業務遂行できる。		表1 学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 添付資料1-2-1 学習・教育到達目標の達成と基準1(2)の(a)～(i)の育成のための科目配置 添付資料1-1-4 土木工学科JABEEにおける到達水準（評価基準）2013.10.4 添付資料1-2-3 基準1の(a)-(i)の項目の詳細説明（勘案事項）2013.10.4 添付資料1-2-4 能力と科目・履修条件の相関2013.10.4
1(2)[2](g)	自主的、継続的に学習する能力	◎	表1に示すとおり、(g)の内容は学習教育到達目標G,Jの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2と添付資料に示すように、主体的には卒業研究などで育成する。評価基準：将来にわたり技術者として活躍していくための継続的研鑽の必要性を理解し、必要な情報や知識を獲得する方法の知識があり、意欲的に実行できる。		表1 学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 添付資料1-2-1 学習・教育到達目標の達成と基準1(2)の(a)～(i)の育成のための科目配置 添付資料1-1-4 土木工学科JABEEにおける到達水準（評価基準）2013.10.4 添付資料1-2-3 基準1の(a)-(i)の項目の詳細説明（勘案事項）2013.10.4 添付資料1-2-4 能力と科目・履修条件の相関2013.10.4
1(2)[2](h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力	◎	表1に示すとおり、(h)の内容は学習教育到達目標F,J,Kの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2と添付資料に示すように、主体的には卒業研究などで育成する。評価基準：社会の実相を反映したモデル問題に対して、時間、費用を含む与えられた制約下で計画的に仕事を進め、計画の進捗を分析し、必要に応じて計画を修正でき、モデル問題の目標を達成できる。		表1 学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 添付資料1-2-1 学習・教育到達目標の達成と基準1(2)の(a)～(i)の育成のための科目配置 添付資料1-1-4 土木工学科JABEEにおける到達水準（評価基準）2013.10.4 添付資料1-2-3 基準1の(a)-(i)の項目の詳細説明（勘案事項）2013.10.4 添付資料1-2-4 能力と科目・履修条件の相関2013.10.4
1(2)[2](i)	チームで仕事をするための能力	◎	表1に示すとおり、(i)の内容は学習教育到達目標E,F,Iの知識・能力の育成により達成する。具体的には表2と添付資料に示すように、主体的には土木実験1と2などで育成する。評価基準：社会の実相を反映したモデル問題に対して、他者と協働する際に、自己のなすべき行動を的確に判断・実行し、他者と協働する際に、他者のとるべき行動を判断し、他者に働きかけることができる。		表1 学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 添付資料1-2-1 学習・教育到達目標の達成と基準1(2)の(a)～(i)の育成のための科目配置 添付資料1-1-4 土木工学科JABEEにおける到達水準（評価基準）2013.10.4 添付資料1-2-3 基準1の(a)-(i)の項目の詳細説明（勘案事項）2013.10.4 添付資料1-2-4 能力と科目・履修条件の相関2013.10.4
1(2)[3]	学習・教育到達目標は、水準も含めて設定されていますか？	◎	学習・教育到達目標A～Kに授業科目が対応しており、学科として到達水準を設定した。各科目の単位取得については表2およびシラバスに明記された達成目標および評価方法及び評価基準に従って評価した結果、合格であれば単位が与えられる。また、各学習・教育到達目標に対応する科目群には卒業までに必ず修得する必要のある科目（必修・必須科目あるいは選択必修科目（社会基盤コースでは実質必修））が含まれており、最低限必要な水準が達成できる。		表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 実地審査資料1-2-1 成績評価方法 添付資料1-1-4 土木工学科JABEEにおける到達水準（評価基準）2013.10.4 添付資料1-2-3 基準1の(a)-(i)の項目の詳細説明（勘案事項）2013.10.4 添付資料1-2-4 能力と科目・履修条件の相関13.10.4
1(2)[4]	学習・教育到達目標は、広く学内外に公開されていますか？	◎	社会基盤コースの学習・教育到達目標は2011年4月1日より芝浦工業大学土木工学科のwebサイトに掲示し、学内外に公開した。また、工学部JABEE推進委員会発行の「芝浦工業大学JABEEへの取り組み」という冊子を作成し、学内関係教職員や学生に配布されている。		土木工学科H.P. http://www.db.shibaura-it.ac.jp/ 実地閲覧資料1-1-1 芝浦工業大学JABEEへの取り組み

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[5]	学習・教育到達目標は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	◎	2011年4月以降は、年度初めに行われる新入生ガイダンスにおいて、全員に冊子「芝浦工業大学JABEEへの取り組み」と「土木工学科JABEE説明資料」を配布し説明を行っている。年度終了時には必要に応じて見直しを行い学科全教員に周知している。非常勤講師には年度初めに関連資料を送り周知するとともに、毎年度3月に開催する懇談会で説明を行っている。		添付資料1-1-17 新入生ガイダンス資料2014&2013年度分 添付資料1-1-18 土木工学科学生JABEE説明資料2014年版 添付資料1-1-19 非常勤報告説明会進行説明資料(2014.3) 実地閲覧資料1-1-1 芝浦工業大学JABEEへの取り組み
2	基準2 教育手段				
2.1	2.1 教育課程の設計				
2.1(1)	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程(カリキュラム)が設計され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていること。なお、標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たすこと。				
2.1(1)[1]	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程(カリキュラム)が設計されていますか？	◎	表3,4のように、技術者に必要な能力の養成を目的とし、学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目を配置している。科目を力学・防災・計画・情報・環境系に分類し、低学年では主に土木専門の基礎的素養の習得を、高学年では講義、実験、演習を通し社会の実課題に関わる技術、知識の習得を目指して体系的に科目を配置し、各自の進路・方向性を意識できるカリキュラム設計としている。		表3 学習・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明 表4 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ 添付資料1-2-2 学習教育目標と科目・履修条件の相関 2013.10.9 添付資料2-1-1_卒業研究評価表_学習教育目標と行動特性_20130117
2.1(1)[2]	カリキュラムが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	◎	教員は次年度のカリキュラムの検討を6~12月にかけて学科会議やJABEE委員会で議論し、相互理解を図っている。学生に対しては、新入生オリエンテーションにおいて学修の手引、および「芝浦工業大学JABEEへの取り組み」を配布し、カリキュラム構成等を詳細に解説している。また常にカリキュラムを学生が確認できるように、当学科のH.P.にも掲載し、さらに各科目の開講状況については、工学部授業時間割表において開示されている。		添付資料1-1-17 新入生ガイダンス資料2014&2013年度分 添付資料1-1-18 土木工学科学生JABEE説明資料2014年版 実地閲覧資料2-1-1 学修の手引 実地閲覧資料2-1-2 工学部授業時間割表2012&2013年度 専門科目カリキュラム http://www.db.shibaura-it.ac.jp/education/curriculum09.html
2.1(1)[3]	カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていますか？	◎	表1~4と添付資料により、学習・教育到達目標に対するカリキュラムにおける各科目との対応関係が明瞭である。		表1 学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)~(i)との対応 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 表3 学習・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明 表4 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ 添付資料1-2-1 学習・教育到達目標の達成と基準1(2)の(a)~(i)の育成のための科目配置
2.1(1)[4]	標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たしていますか？	◎	標準修了年限4年間、全授業時間1600時間以上、人文科学と社会科学などの授業時間は250時間以上、数学、自然科学、情報技術の授業時間は250時間以上、専門分野の授業時間は900時間以上である。当該分野にふさわしい数学、自然科学及び科学技術に関する内容が全体の69.4%となっており、許容値である60%を超えており、要求を満足している。		添付資料1-1-18 土木工学科学生JABEE説明資料2014年版 添付資料2-1-2 自然科学及び科学技術に関する割合
2.1(2)	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書(シラバス)が作成され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていること。また、シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていること。				
2.1(2)[1]	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書(シラバス)が作成されていますか？	◎	表3と4に基づき、学科開講の専門科目群および共通・教養科目群のシラバスは、検索できるようにwebサイト上にすべて作成されている。入学年度ごとにシラバスがあり、さらに学科ごとおよびコースごとに区分されている。		表3 学習・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明 表4 学習・教育到達目標を達成するために必要な授業科目の流れ シラバス検索システムhttp://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.1(2)[2]	シラバスが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	◎	学科開講の専門科目群、共通・教養科目群のシラバス・授業計画は、検索できるようにwebサイト上に公開されている。		シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.1(2)[3]	シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていますか？	◎	個別科目のカリキュラム中の位置づけは、それを記載した「学修の手引き」を入学当初に配布、説明し、また学科ホームページに公開し各自が随時確認できるようにしている。各科目のシラバスには、授業の概要・達成目標・半期15週の授業計画・授業時間外課題・評価方法と基準・教科書・参考書・履修登録前の準備・学習・教育目標との対応・オフィスアワー、質問・相談の方法が記載されており、ホームページに公開されている。		シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 土木工学科HP http://www.db.shibaura-it.ac.jp/ 添付資料1-1-18 土木工学科学生JABEE説明資料2014年版 添付資料1-2-2 学習教育目標と科目・履修条件の相関 2013.10.9 添付資料2-1-1_卒業研究評価表_学習教育目標と行動特性_20130117 実地閲覧資料2-1-1 学修の手引
2.1(2)[4]	シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていますか？	◎	当該年度の時間割については、大学のHPサイトにある時間割検索システムにより、公開している。また全学生に工学部授業時間割表を配布している。		添付資料2-1-3 卒業研究の実施と評価に関する規程 実地閲覧資料2-1-2 工学部授業時間割表2012&2013年度 時間割検索システム http://timetable.sic.shibaura-it.ac.jp/
2.2	2.2 学習・教育の実施				
2.2(1)	シラバスに基づいて教育が行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.2(1)[1]	シラバスに基づいて教育が行われていますか？	◎	各教員は担当科目のシラバスと対応を確認しながら適切な講義の実施による教育に努めている。また、講義の事実・内容を記録し、休講した際は必ず補講や措置を行うことでシラバスに従った教育を実施するようにしている。当該年度の休講と補講については、大学のHPサイトにある休講情報、補講情報の検索システムにより公開している。卒業研究については、その実施と評価に関する規程を作成し、従事時間数の確認も行っている。		キャンパスライフ http://www.shibaura-it.ac.jp/campuslife/ 実地閲覧資料2-2-1 授業実施記録 2012&2013年度 添付資料2-1-2卒業研究の実施と評価に関する規程 添付資料2-2-1卒業研究従事時間数の調査—2013&2012年度分
2.2(2)	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていること。				
2.2(2)[1]	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていますか？	◎	学生の自己学習時間を確保するため、半期24単位の履修を原則として指導を行っている。また、シラバスには、(1)予習・復習の必要時間の明記、(2)実習や実験・演習科目などにおける課題提出を行っている。この他、図書館とPC教室の利用時間への配慮、および自習室・ゼミ室・就職資料室・測量準備室の設置を行って、学生の意欲を満足させるための設備を充実させている。		シラバス検索システム http://syllabus.sic.shibaura-it.ac.jp/ 図書館 http://lib.shibaura-it.ac.jp/ ゼミ室予約システム http://www.db.shibaura-it.ac.jp/
2.2(3)	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させ、それを学習に反映させていること。				
2.2(3)[1]	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させていますか？	◎	学生が確認できるよう、S★gsotにて科目ごとの履修状況やプレイズメントテスト結果、TOEIC・TOEIC Bridgeの結果、GPA、成績(S, A, B, C, D)、取得総単位数が閲覧・点検できる。また学習・教育到達目標に対する単位取得科目と時間数は、JABEE達成表により点検できる。さらに本学では、警告・退学勧告制度・3年次への進級停止・4年次卒業研究着手に関して制度があり、取得単位数を中心とした点検制度がある。		S★gsot http://sgsot.sic.shibaura-it.ac.jp/ 添付資料2-2-2 JABEE学生自身による取得単位チェック表 2013&2012年度分 添付資料2-2-3 JABEE達成表例 添付資料2-2-4 JABEE達成表のガソット閲覧回数データ 2014&2013年度分 添付資料2-2-5 クラス担当業務2012. 5. 17 社会基盤コース(JABEE関連)資料 http://www.db.shibaura-it.ac.jp/iabee.html

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.2(3)[2]	自分自身の達成状況の継続的な点検を学習に反映させていますか？	◎	本学での上記制度により、学生自ら点検し、翌半期の履修計画などに反映させている。また成績優秀者リスト (Dean's List) も作成され表彰される。成績不振者には面談を行って、成績の思わしくない科目に対し自覚を促し、次期の履修科目・時間割作成の指導を実施している。また回答書・修学指導計画書を提出させ、教員は警告対象者の面談記録を提出している。さらに、全学生を対象とした定期個人面談では、学習・進路・就職に関し相談を実施している。		添付資料1-1-17 2012年度新入生ガイダンス資料_20130328 添付資料1-1-18 土木工学科学生JABEE説明資料2014年版 添付資料2-2-5 クラス担当業務2012.5.17 実地閲覧資料2-1-1 学修の手引 添付資料2-2-6 警告・自主退学勧告・進級停止・卒研着手法件 添付資料2-2-7 警告対象者面談記録 添付資料2-2-8 警告対象者理由修学指導計画書 添付資料2-2-9 土木工学科新3年生進路希望調査 添付資料2-2-10 土木工学科新3年生面談予定表 添付資料2-2-11 Deans List-2012前期主任会議資料 添付資料2-2-12 2012前期終了時点学生の成績不審者リスト-学生課より 学科の履修モデルhttp://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/civil_engineering/campus_life.html
2.3	2.3 教育組織				
2.3(1)	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していること？				
2.3(1)[1]	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していますか？	◎	2013年度は専任の教授8名、准教授3名と特任教授1名であり、全員博士の学位を保有し、また大学以外の研究所出身者が8名おり、基礎教育と応用研究を教授できる。非常勤講師は、通年3名、前期6名、後期7名であり、TAと教育的アルバイトも配置し、補佐体制は十分である。教育支援体制として、クラス担任制をベースに、①学科主任を核とした執行体制とJABEE組織、②研究室や実験室など設備、③基礎学力強化への支援、④特別講師の招聘などを展開している。		添付資料2-3-1 教員の数と能力 添付資料2-3-2 非常勤講師 添付資料2-3-3 TAと教育的アルバイトの変遷—2013年度まで 添付資料2-3-4 教育支援体制 添付資料2-3-5 土木工学セミナーシラバス2013&2014年度 教員プロフィール http://kyoinprofile.sic.shibaura-it.ac.jp/ 教員データベース http://resea.shibaura-it.ac.jp/ 学習サポート室http://kyoikukaihatsu.shibaura-it.ac.jp/support_top.html
2.3(2)	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織があり、それに基づく活動が行われていること。				
2.3(2)[1]	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織がありますか？	○	学科内においては、教員間連絡会議を設立し、(1)計画系 (2)環境・情報系 (3)水理系 (4)土質系 (5)防災系 (6)構造・材料系の6つの分科会によりカリキュラムの検討や教育効果向上の議論をする。また、すべての分科会を集約して学科JABEE委員会で議論する。一方、工学部においては、教授会、主任会議、教務委員会、教育開発本部があり、学科から少なくとも1名委員を出して、連携を行っている。		添付資料1-1-15 JABEE学科基本組織2014&2013年版 添付資料1-1-16 土木工学科人事案2014&2013年版 添付資料2-3-6 土木工学詳細分野ごとの専門科目履修モデル (社会基盤コース) 添付資料2-3-7 教員間カリキュラム検討ネットワーク 添付資料2-3-8 学科会議議事次第2012年度 添付資料2-3-9 学科会議議事次第2013年度 添付資料2-3-10 JABEE会議議事次第2012&2013年度 添付資料2-3-11 工学部教授会規則 添付資料2-3-12 工学部主任会議内規 添付資料2-3-13 工学部JABEE推進委員会規程 添付資料2-3-14 工学部教務委員会規程 添付資料2-3-15 工学部教育開発本部規程 添付資料2-3-16 教学経営審議会の進め方について (第1004回 学部長研究科長会議資料) 添付資料2-3-17 教学経営審議会配布資料 (関連部分) 添付資料2-3-18 教学経営審議会 討議事項 (まとめ) (第1011回学長室会議資料) チャレンジSIThttp://www.shibaura-it.ac.jp/about/sit-90/summary.html 教育開発本部 http://www.shibaura-it.ac.jp/education/educational_development_on_engineering/aim.html

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(2)[2]	上記の教員間連絡ネットワーク組織に基づく活動が行われていますか？	△	工学部におけるネットワークはそれぞれ毎月1回ほどのペースで開催されている。学科内における教員間ネットワークを2013年度に開催し、設定したカリキュラム調整や教育効果向上のための施策を議論した。		添付資料2-3-19 学科内教員間ネットワーク議事録2013年度 添付資料2-3-20 学科会議議事録2012年度 添付資料2-3-21 学科会議議事録2013年度 添付資料2-3-22 JABEE会議議事録2012&2013年度 添付資料2-3-23 教授会議事録2012年度 添付資料2-3-24 教授会議事録2013年度 添付資料2-3-25 教育開発本部議事録2012年度 添付資料2-3-26 教育開発本部議事録2013年度 添付資料2-3-27 2009年度チャレンジSIT-90作戦 活動報告 学習サポート室 http://kyoukukaihatsu.shibaura-it.ac.jp/support_top.html
2.3(3)	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.3(3)[1]	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがありますか？	◎	全学として、FD・SD改革推進委員会があり、学内外の講師を招いて講演会を実施している。工学部には、教育開発本部が設置され、工学教育プログラム・教育システム研究開発部門などを運営し、工学教育プログラムの検証と開発を行うと共に、授業の改善と教育上の問題点の探索のため、全科目に対し学生による授業アンケートを実施している。学科では、JABEE委員会で教育方法や設備改善などのFD活動の提案と実施を行っている。		添付資料2-3-22 JABEE会議議事録2012&2013年度 全学FDSD講演会 http://www.shibaura-it.ac.jp/education/fd-sd/report.html 教育開発本部 http://www.shibaura-it.ac.jp/education/educational_development_on_engineering/aim.html
2.3(3)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	教育開発本部の活動内容は随時教授会にて報告・案内されている。また、FDニュースレターが発行され、教授会での配布とwebサイトへの掲載をしている。授業アンケートは、集計結果に担当教員のコメントを付した内容を、webサイトを利用して学内に限って開示している。学科では、教育改善委員会により学科内における活動内容を、学科全教員に電子メールで配信し、随時学科会議および学科JABEE委員会にて報告している。		添付資料2-3-15 工学部教育開発本部規程 添付資料2-3-22 JABEE会議議事録2012&2013年度 教育開発本部 http://www.shibaura-it.ac.jp/education/educational_development_on_engineering/aim.html 全学FDSD講演会 http://www.shibaura-it.ac.jp/education/fd-sd/report.html
2.3(3)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	◎	全学FD・SD講演会は年に複数回実施され、同会では本学教育賞の表彰も行われている。授業アンケートは授業改善だけでなく、カリキュラムの傾向把握や改善のための利用となるように、種々検討している。また、私立大学連盟主催のFD研修会への参加や教育賞への応募を行っている。さらに、教員に対し、授業ハンドブック、学習指導の手引を配布し、教職員行動規範を制定し、教員の指導と倫理規程を明確に示している。		添付資料2-3-28 芝浦工業大学優秀教育教員顕彰規程 実地閲覧資料2-3-1 授業ハンドブック 実地閲覧資料2-3-2 学修指導の手引 実地閲覧資料2-3-3 芝浦工業大学教員倫理綱領 授業アンケートweb(教員データベースから) http://resea.shibaura-it.ac.jp/ 全学FDSD講演会 http://www.shibaura-it.ac.jp/education/fd-sd/report.html 優秀教育教員顕彰制度http://www.shibaura-it.ac.jp/education/education_of_shibaura-it/aword.html
2.3(4)	教員の教育活動を評価する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従って教育改善に資する活動が行われていること。				
2.3(4)[1]	教員の教育活動を評価する仕組みがありますか？	○	教員個人が、教育活動、研究活動、大学運営、社会貢献について、年度始めに達成目標設定と活動計画作成を行い、年度末に達成度および改善点の評価で構成された自己評価を実施している。教員データベースや業績システムには詳細なデータを記入しており、教員資格審査は5年ごとに再審査を受けなければならない。学生による授業評価、教員による相互評価卒業生による評価などを取り入れる検討をしている。		添付資料2-3-29 芝浦工業大学教員教育・研究等業績評価規程 教員データベース http://resea.shibaura-it.ac.jp/ 教員業績システム教育・研究等業績評価シート https://gyoseki.ow.shibaura-it.ac.jp/gyoseki/

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(4)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	教育・研究等業績評価の実施状況や教育・研究活動、大学運営などの各種情報は、大学WEB教員データベースで公表されている。また、教員資格の職能要件に基づく再審査および昇格に関わる審査の各結果は、学科主任を通して本人に連絡される。本学webサイト上に各科目の学生による授業アンケート結果を公表し、教員コメント欄を設けて学生の閲覧とともに、授業改善に役立てている。		添付資料2-3-30 工学部資格審査委員会規程-審査方法内規、再審査方法含 教員データベース http://resea.shibaura-it.ac.jp/
2.3(4)[3]	上記の仕組みに従って教育改善に資する活動が行われていますか？	◎	教員資格の職能要件に基づく再審査を各教員5年毎に実施されている。再審査項目は①教育業績②研究業績③大学運営学会・社会活動などである。優秀な教育実績を挙げ、学生に大きな刺激を与えた教員に対し、優秀教育教員として顕彰している。受賞者は、全学FD・SD講演会にて表彰と授業内容のプレゼンテーションを行い、教員相互の教育に役立てている。		添付資料2-3-28 芝浦工業大学優秀教育教員顕彰規程 全学FDSD講演会 http://www.shibaura-it.ac.jp/ 教員データベース http://resea.shibaura-it.ac.jp/ 優秀教育教員顕彰制度 http://www.shibaura-it.ac.jp/education/education_of_shibaura-it/award.html
2.4	2.4 入学、学生受け入れ及び異動の方法				
2.4(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって選抜が行われていること。				
2.4(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められていますか？	◎	学科のアドミッションポリシーを開示し、その理念を理解した上での出願を期待している。入試関連の主な年度計画は以下のようである。①各学科から入試についてのアンケート・要望：4月、②基本方針・一般入試提案：5月、③指定高校および併設高校の推薦入試提案：6、7月、④外国人・帰国生徒特別入試：1月、⑤一般入試（前期日程・センター試験利用・後期日程）：1～2月、⑥学士・編入試験：3月、⑦合否判定会議による合格者決定		添付資料1-1-5 在校生の土木工学に対する意識変化 添付資料2-4-1 学科主任宛入試に関するアンケート2012年度の例 添付資料2-4-2 教授会議事次第2013年度 添付資料2-4-3 合否判定会議内規
2.4(1)[2]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が学内外に開示されていますか？	◎	入学選抜については以下の6通りの方法にて学内外へ開示している。①文部科学省への報告（→これにより文部科学省より全国主要機関への開示をしている）、②入試ガイド（要項概要）の配布、③入試要項の配布、④本学webサイトへの掲出、⑤主要受験雑誌・主要新聞への掲出、⑥指定校等への直接通知等。またオープンキャンパスでは参加者に入学情報を提供している。		入試情報 http://www.shibaura-it.ac.jp/admission/ 添付資料2-4-4 入試概要2013&2014年度
2.4(1)[3]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法に従って選抜が行われていますか？	◎	資質を持った学生を募集するアドミッションポリシーを公開した上で、具体的な選抜方法は以下のようになっている。①前期一般（3教科）、②全学統一一般（3教科）、③後期一般（3教科）、④センター利用方式（4教科）、⑤指定校推薦、⑥併設高校推薦、⑦外国人・帰国生徒特別（若干名）。学科の1～4年次生の定員数の1.15倍程度になるよう、毎年度入学生数を点検している。		添付資料1-1-5 在校生の土木工学に対する意識変化 添付資料2-4-5 土木工学科入学試験科目など詳細内容2013&2014年度共に同じ 添付資料2-4-6 土木工学科志願者数変遷と分析2012年度まで
2.4(2)	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的な方法が定められ、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、それによって履修生の決定が行われていること。				
2.4(2)[1]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的な方法が定められていますか？	—	本学科では、社会基盤コースの学生すべてがJABEEプログラム対象となるため、設定していない。		添付資料1-1-18 土木工学科学生JABEE説明資料2014年版 実地閲覧資料2-1-1 学修の手引 実地閲覧資料1-1-1 芝浦工業大学JABEEへの取り組み
2.4(2)[2]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的な方法が当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	—	本学科では、社会基盤コースの学生すべてがJABEEプログラム対象となるため、開示していない。		添付資料1-1-18 土木工学科学生JABEE説明資料2014年版 実地閲覧資料2-1-1 学修の手引 実地閲覧資料1-1-1 芝浦工業大学JABEEへの取り組み 学科のwebサイト http://www.db.shibaura-it.ac.jp/iabee.html

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(2)[3]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の決定が行われていますか？	—	本学科では、社会基盤コースの学生すべてがJABEEプログラム対象となるため、該当していない。		添付資料1-1-18 土木工学科学生JABEE説明資料2014年版 実地閲覧資料2-1-1 学修の手引 実地閲覧資料1-1-1 芝浦工業大学JABEEへの取り組み
2.4(3)	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって履修生の編入が行われていること。				
2.4(3)[1]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められていますか？	◎	「芝浦工業大学編入学規程」に基づいて編入学試験を実施し、合格者に対し編入が許可される。編入学生の単位振替認定に関しては、学外単位等認定制度規程に基づき単位の評価・認定を行う。このとき学科において、編入元の学科がJABEEに基づいているか点検をしたうえで単位認定を行う。		添付資料2-4-7 芝浦工業大学編入学規程 添付資料2-4-8 学外単位等認定制度規程 添付資料2-4-9 転科・転部、編入学、学士編入学およびこれに伴う単位認定2011.11.18制定
2.4(3)[2]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法が学内外に開示されていますか？	◎	本学のwebサイトに掲載されている「編入学試験」の案内に「募集学科・試験内容」「出願資格」「入試日程」が開示されている。社会基盤コースへの編入学に関する事項については、学科webサイトに掲載し、編入学希望者へは添付資料2-4-9の通知を行う。将来的には、編入学生のJABEEコース履修に関する詳細を、編入学試験要項に記載していく方針である。		学科のwebサイト http://www.db.shibaura-it.ac.jp/iabee.html 大学としての編入学出願資格 http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/summary/index.html
2.4(3)[3]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の編入が行われていますか？	◎	上記編入学規定に基づき、履修生の編入を実施している。編入については2012年度1名、2013年度1名おり、編入前の大学に所属したときに取得した単位は本学の学外単位認定制度に基づき単位認定を行った。		添付資料2-4-10 編入学生の推移(2004～2011年度) 大学としての編入学出願資格 http://www.shibaura-it.ac.jp/examinee/summary/index.html
2.4(4)	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められ、関係する教員及び学生に開示されていること。また、それによって履修生の異動が行われていること。				
2.4(4)[1]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められていますか？	◎	(1)学科内プログラム履修生の移籍方法(コース変更)に関し、学科には社会基盤コースと社会システムデザインコースがあり、コース相互に変更が可能であり、このときの条件について学科が定めている。(2)学内からの転科・転部に関し、社会基盤コースへ編入学をする場合、上記の一般的な編入学に関する規程に加え、学科が定めた事項を満たさなければならない。		添付資料2-4-11 土木工学科内コース変更2011.11制定 添付資料2-4-9 転科・転部、編入学、学士編入学およびこれに伴う単位認定2011.11.18制定
2.4(4)[2]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的な方法が関係する教員及び学生に開示されていますか？	◎	学科内コース変更については、学科JABEE委員会にて審議し決定している。教員への開示はその際の議事録および2012年度の学科ガイダンス時において説明を行っている。また学生への開示は、入学時の土木工学科オリエンテーション「土木工学科JABEE説明会資料」で説明を行っている。転部・転科については学修の手引きと学科HPに掲載している。		添付資料2-4-12 11007教室会議議事録 実地閲覧資料2-1-1 学修の手引 学科のwebサイト http://www.db.shibaura-it.ac.jp/iabee.html
2.4(4)[3]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の異動が行われていますか？	◎	プログラム履修生の移動として、社会システムデザインコースから社会基盤コース(JABEEコース)への移動申請があり、2012年度と2013年度に承認した。移動は1年次から2年次に進級する際しか認めていない。		添付資料2-4-13 転コース申請_土木工学科_学生課提出 2013.2&2014.2の例
2.5	2.5 教育環境・学生支援				
2.5(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されており、それらを維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていること				
2.5(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されていますか？	◎	本学のキャンパスは、①豊洲キャンパス、②大宮キャンパス、③芝浦キャンパスである。校地面積は約300,400㎡、校舎面積は78,212.2㎡であり、いずれも大学設置基準を超えている。図書館、パソコン室や学術情報センターなどの情報関連施設も充実し、食堂などの学生厚生施設も完備している。学科管理としては、12研究室・4実験室・ゼミ室・自習室・就職資料室・会議室・測量準備室がある。		添付資料2-5-1 大学における施設・設備等 添付資料2-5-2 工学部における施設・設備等 添付資料2-5-3 学生実験設備と卒業研究用設備 大学データ集 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/r7u3rf000002t2v-att/2011_valuation_data.pdf キャンパス・施設紹介 - スケルキャンパス http://www.shibaura-it.ac.jp/educational_foundation/facility/toyosu_campus.html

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
					豊洲キャンパス http://www.shibaura-it.ac.jp/about/campus_toyosu.html
2.5(1)[2]	上記の施設、設備を維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていますか？	◎	(1) 本学の取り組みとしては、理事会は、堅実な事業計画のもとに、消費収入・帰属収入、教育研究経費・人件費・管理経費を適正に管理しており、計画的に教育研究施設の維持運用を行っている。(2) 学科の取り組みとしては、学科会議において予算を研究費・教育費に分けて適正に管理・運用している。内訳は、教育用経費－消耗品費・実習見学費、研究用経費－研究旅費・実験費用等、設備関係経費である。		添付資料2-5-3 学生実験設備と卒業研究用設備 添付資料2-5-4 消費収支推移 添付資料2-5-5 財務比率推移 添付資料2-5-6 科学研究費取得状況 添付資料2-5-7 学科予算変遷2006-2013年度 添付資料2-5-8 工学部予算2012&2013年度 大学基礎データ http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/r7u3rf0000002t2v-att/2011_valuation_basic_data.pdf
2.5(2)	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.5(2)[1]	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがありますか？	◎	教員全員のオフィスアワーの設定を行うとともに、学科が管理する研究室などについて学科会議で議論している。また大学による支援の仕組みとして、基礎科目のための学習サポート室・総合的な学生サービスを展開する学生センター・専門カウンセラーが適切なアドバイスを行う学生相談室の設置を行っている。また、学生による全科目の授業アンケート、ハラスメント防止委員会の設置・外部機関を利用する電話カウンセリングによってサポートしている。		添付資料1-1-17 新入生ガイダンス資料2014&2013年度分 添付資料2-5-9 教育環境及び学習支援に関する全体像 添付資料2-5-10 教育環境に関する学生支援の仕組み 添付資料2-5-11 学習に関する学生支援の仕組みの存在 添付資料2-5-12 ICUS2007教育研究連携協定 大学データ集 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/r7u3rf0000002t2v-att/2011_valuation_data.pdf 図書館 http://lib.shibaura-it.ac.jp/ 学生総合保障制度 http://www.shibaura-it.ac.jp/student/campus_life/safe_system.html 学生相談室・保険室 http://www.shibaura-it.ac.jp/student/campus_life/mental_and_health_support.html 学習サポート室 http://kvoikukaihatsu.shibaura-it.ac.jp/support_top.html
2.5(2)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていますか？	◎	学生支援に関しては、「工学部クラス担任一覧表」などを学生に明示し、「SIT Campus Guide」および大学のwebサイトに開示している。この他、「学生相談室」については、教職員用・学生用に分けてリーフレット「学生相談室のご案内」を全員に配付し、ハラスメントについてもパンフレットを配付し、webサイトに開示している。授業アンケート結果は、学生を含めた学部構成員全般にwebを利用して公開している。		実地閲覧資料2-5-1 SIT Campus Guide 実地閲覧資料2-5-2 安全の手引 実地閲覧資料2-5-3 緊急連絡体制ポスター 図書館 http://lib.shibaura-it.ac.jp/ 奨学金 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/r7u3rf0000002t2v-att/2011_valuation_data.pdf 学生総合補償制度 http://www.shibaura-it.ac.jp/student/campus_life/safe_system.html 学生相談室・保健室 http://www.shibaura-it.ac.jp/student/campus_life/mental_and_health_support.html
2.5(2)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	◎	学生支援の活動実績は、資料「学術情報センターHello Page」、「学習サポート室の利用状況」などに示されている。授業アンケートは、各科目担当教員が、実施期間中の授業時間を利用して、学生にアンケート用紙を配付し、その場で回答させている。また学科において、担任による学生の個人面談：修学状況などで問題のある学生に対し、学年担任による個人面談を実施し、学生の修学に関してサポートしている。		添付資料2-5-13 学生支援の仕組みの活動実施状況 添付資料2-5-14 新学期住まい紹介状況報告2011年度 添付資料2-5-15 学生センター会議・行事日程2012年度 添付資料2-5-16 学生相談室利用状況2009-2013年度 添付資料2-5-17 ハラスメントの防止と解決のために 添付資料2-5-18 学習サポート室の利用状況2010-2012年度 実地審査資料2-5-4 学生相談室年報 実地審査資料2-5-5 学術情報センターHello Page 実地審査資料2-5-1 SIT Campus Guide

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
					奨学金 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/r7u3rf0000002t2v-att/2011_valuation_data.pdf 図書館利用状況 http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/r7u3rf0000002t2v-att/2011_valuation_data.pdf 授業アンケートweb(教員データベースから) http://resea.shibaura-it.ac.jp/
3	基準3 学習・教育到達目標の達成				
3(1)	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていること。				
3(1)[1]	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていますか？	◎	学習・教育到達目標に対する主たる科目の達成度評価の実施状況を根拠資料として示す。シラバスに定められた評価方法と基準に基づき、科目ごとの到達目標に対する達成度も示されている。総合的な達成度は達成表を作成している。卒業研究に関しては、その概要を工学部土木工学科卒業研究概要集として毎年刊行している。		添付資料2-2-3 JABEE達成表例 実地閲覧資料 3-1-1 主要科目のシラバス 実地閲覧資料 3-1-2 主要科目の成績評価方法 実地閲覧資料 3-1-3 主要科目の成績原簿および関連記録(教科書、試験問題、答案・レポートなど最近2年分) 実地閲覧資料 3-1-4 工学部土木工学科卒業研究概要集(2012&2013年度)
3(2)	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。				
3(2)[1]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	◎	「工学部学外単位等認定制度規程」に基づき、「他大学等教育機関」で単位を取得した場合、それが本学における教育上有益と認められるときには、30単位を限度に本学の単位として認定される。また本学入学前に「他大学等教育機関」で取得した単位は、在籍中に取得した単位とは別に30単位を限度に認定を受けることができる。上記規程に加え、学外他学部、他学科、編入前に取得した単位の認定方法を学科で定めている		添付資料3-2-1 工学部学外単位等認定制度規程 添付資料2-4-9 転科・転部、編入学、学士編入学およびこれに伴う単位認定2011.11.18制定
3(2)[2]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	◎	TOEICなど英語検定試験成績による学外単位認定の実績はあり、教務委員会で審議の後、教授会に報告されている。編入については2012年度1名、2013年度1名おり、編入前の大学に所属したときに取得した単位は本学の学外単位認定制度に基づき単位認定を行った。		添付資料2-3-24 教授会議事録2013年度 添付資料3-2-2 英語検定試験成績による単位付与 添付資料3-2-3 編入学生単位認定状況2012年度の例
3(2)[3]	編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	◎	工学部学外単位等認定制度規程により、教務委員会が(1) 学士入学・編入学・マレーシア留学生の単位 (2) 本学入学前に所属していた大学・短大等で取得した単位について単位認定を行っている。学科は専門科目、共通学群は共通教養科目について、単位認定案を教務委員会に提出する際、編入元がJABEE対応プログラムであるか、そうでない場合には編入元における授業内容をシラバスで点検する。		添付資料2-4-9 転科・転部、編入学、学士編入学およびこれに伴う単位認定2011.11.18制定 添付資料3-2-1 工学部学外単位等認定制度規程 添付資料3-2-2 英語検定試験成績による単位付与
3(2)[4]	編入生等が編入前に取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	◎	単位互換協定に基づく単位認定の状況として、2010年度当学科関係で1名であった。編入については2012年度1名、2013年度1名おり、編入前の大学に所属したときに取得した単位は本学の学外単位認定制度に基づき単位認定を行った。		単位互換協定とそれ以外http://www.shibaura-it.ac.jp/about/evaluation/inspection/r7u3rf0000002t2v-att/2011_valuation_data.pdf 添付資料3-2-3 編入学生単位認定状況2012年度の例
3(3)	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められ、それによって評価が行われていること。				
3(3)[1]	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められていますか？	○	表2や4に示された、学習・教育到達目標ごとに設定された科目を履修することにより、JABEE達成表を作成し、以下の数値により総合的に評価する。学習・教育到達目標ごとに、授業時間総数、個人の取得単位数、学年平均取得単位数、個人取得科目平均点、授業時間は、人文・社会(語学含む)、数学、自然科学、情報技術、専門分野などと、総計を示す。専門科目単位数は、必修、選択必修、A群・B群・C群・D群選択、単位数合計を示している。		添付資料 2-2-3 JABEE達成表例 S★gsot http://sgsot.sic.shibaura-it.ac.jp/

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
3(3) [2]	上記の評価方法と評価基準に従って評価が行われていますか？	○	2011年度入学生からJABEE試行を実施しており、各年度・各人ごとに達成度一覧表をJABEE達成表として作成し、S★gsotにより点検できる。		添付資料 2-2-3 JABEE達成表例 S★gsot http://sgsot.sic.shibaura-it.ac.jp/
3(4)	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していること。				
3(4) [1]	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していますか？	—	2011年度入学生からJABEE試行を実施しており、2013年度では修了生はいない。		
3(5)	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていること。				
3(5) [1]	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていますか？	○	表1により、学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応が、表2により学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準が定められ、表3により学習・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明がされている。これらによれば卒業要件を満たせば学習・教育到達目標が達成され、基準1(2)の(a)～(i)の内容が身につけていることになる。学生個人については、それぞれのJABEE達成表と単位取得状況を示す成績表が作成されており、これらによって確認出来る。		表1 学習・教育到達目標と基準1(2)の(a)～(i)との対応 表2 学習・教育到達目標とその評価方法及び評価基準 表3 学習・教育到達目標に対するカリキュラム設計方針の説明 添付資料 2-2-3 JABEE達成表例
4	基準4 教育改善				
4.1	4.1 教育点検				
4.1(1)	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに関する活動が行われていること。				
4.1(1) [1]	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがありますか？	◎	学科では、JABEE委員会と学科会議において主に実施しており、その下に分科会とWGが存在する。工学部における教育点検システムにおける具体的な仕組みとして、①学生による授業アンケート、②学生による教育評価アンケート、③卒業生・企業、父母からの要望・意見等集約 がある。これらは教育開発本部や学事部で集約し、結果は各学科、教授会にフィードバックされる。		添付資料1-1-16 土木工学科人事案 2014&2013年版
4.1(1) [2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	当該プログラムに関わる教員全員が出席する毎年度初めの学科会議において審議され、上記の仕組みが開示されている。また学科会議議事録を配布し、かつ保存しているので、教員全員に開示されている。		添付資料2-3-21 学科会議議事録2013年度
4.1(1) [3]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	◎	上記の仕組みに関する活動として、学科会議と学科JABEE委員会を毎月実施している。		添付資料2-3-21 学科会議議事録2013年度 添付資料2-3-22 JABEE会議議事録2012&2013年度
4.1(2)	その仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていること。				
4.1(2) [1]	教育点検の仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含んでいますか？	◎	社会の要求や学生の要望に配慮する仕組みとして、①授業アンケート、②学生による教育評価アンケート、③就職先アンケート、④学科独自の卒業生アンケート、⑤学年担任制度、⑥キャリアサポート課によるアンケート、⑦ホームカミングデー、⑧父母懇談会があり、これらの仕組みを教育点検に含んでいる。		添付資料1-1-16 土木工学科人事案 2014&2013年版 添付資料1-1-6 土木工学科卒業生へのアンケート結果の評価
4.1(2) [2]	教育点検の仕組みは、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていますか？	◎	教育点検の仕組み自体の機能を点検できる仕組みとして、学内組織である①芝浦工業大学評価委員会と、②工学部JABEE推進委員会、および学科内における③学科教務担当、④カリキュラム担当、⑤シラバス担当、⑥教育プログラム実施担当、⑦教育改善検討担当、以上を構成している。		添付資料1-1-16 土木工学科人事案 2014&2013年版 添付資料2-3-11 工学部教授会規則 添付資料2-3-12 工学部主任会議内規 添付資料2-3-13 工学部JABEE推進委員会規程 添付資料2-3-14 工学部教務委員会内規 添付資料2-3-15 工学部教育開発本部規程
4.1(3)	その仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
4.1(3)[1]	教育点検の仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できますか？	◎	当該プログラムに関わる教員は、教育点検の仕組みを構成する会議や委員会の議事録を学内端末等を用いて随時閲覧することができる。工学部において関係するのは教授会・教育開発本部であり、学科では学科会議とJABEE委員会議事録である。		添付資料2-3-20 学科会議議事録2012年度 添付資料2-3-21 学科会議議事録2013年度 添付資料2-3-22 JABEE会議議事録2012&2013年度 添付資料2-3-23 教授会議事録2012年度 添付資料2-3-24 教授会議事録2013年度 添付資料2-3-25 教育開発本部議事録2012年度 添付資料2-3-26 教育開発本部議事録2013年度 添付資料2-3-27 2009年度チャレンジSIT-90作戦 活動報告
4.2	4.2 継続的改善				
4.2	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがあり、それに関する活動が行われていること。				
4.2[1]	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがありますか？	◎	プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みとして、工学部における①工学部教授会、②工学部学群学科主任・科目代表者会議、③工学部JABEE推進委員会、④教育開発本部および工学部教務委員会、⑤大学評価委員会、および学科における⑥学科会議と⑦JABEE委員会がある。		添付資料1-1-16 土木工学科人事案 2014&2013年版 添付資料2-3-11 工学部教授会規則 添付資料2-3-12 工学部主任会議内規 添付資料2-3-13 工学部JABEE推進委員会規程 添付資料2-3-14 工学部教務委員会内規 添付資料2-3-15 工学部教育開発本部規程 添付資料4-2-1 2013年度工学部から各学科・科目へのフィードバックと対応について
4.2[2]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	◎	各会議や委員会から要請や案内が行われ、学科の活動として取り上げる場合がある。内容は以下の項目が挙げられる。①FD・SD活動、②カリキュラム改善、③教育手段改善、④アドミッションポリシー/ディプロマポリシーの明確化、⑤新入生導入科目の改善、⑥GPA導入による学修状況の把握、⑦ポートフォリオの実施による中間・修了時点での達成度評価の明確化、⑧ルーブリック試行による教育プログラムPDCAサイクル改善、⑨PC実習室・製図室整備など。		添付資料2-3-20 教室会議議事録2012年度 添付資料2-3-21 教室会議議事録2013年度 添付資料2-3-22 JABEE会議議事録2012&2013年度 添付資料2-3-23 教授会議事録2012年度 添付資料2-3-24 教授会議事録2013年度 添付資料2-3-25 教育開発本部議事録2012年度 添付資料2-3-26 教育開発本部議事録2013年度 添付資料2-3-27 2009年度チャレンジSIT-90作戦 活動報告 添付資料4-2-2 2013年度工学部総括自己点検報告書(抜粋)